

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立中津川工業高等学校

学校番号

55

1 学校教育目標		(1) 明朗で健康な心身を育成する（健康にして明朗、友愛に満ちた教養ある社会人となるべき資質を養う。） (2) 自主創造性の伸長を図る（自ら考え判断し、表現する力を身につけ、創造性の基礎を培う） (3) 誠実で勤労を愛する態度を養う（専門的な知識・技能に習熟し、勤労を尊び、誠実にことにあたる人材を育成する） (4) 自然を愛する豊かな心を育てる（自然を愛し、生命を尊重するとともに、相手を思いやる心や社会性を養う）					
2 スクール・ポリシー		『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）			
		・工業ならではの知識・技術・スキルの向上をめざし、主体的に他者と協働して課題解決に取り組む生徒 ・多様な人々の互いの人格を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・グローバルな視点から問題の核心を把握し、その解決を目指し地域や社会に貢献できる生徒	・課題発見力・課題解決力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」や「実習」、「課題研究」の推進 ・「課題研究」や教科学習、ICTの活用による、コミュニケーション能力とプレゼンテーション力の育成 ・生徒一人ひとりの個性を尊重し長所を十分に伸ばし、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施	・ものづくりや工業分野に興味があり、向上心を持ち、多様性を尊重し、他者と協働しながら主体的に学びたい生徒 ・自分の将来に目標を持ち、多様な学びに主体的に取り組み、自らの可能性に挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域活動などの校外の自主的な活動や、学校行事や部活動などの校内の活動に積極的に参加し、思いやりを持って関わろうとする意欲のある生徒			
3 現状の分析		○卒業生が社会や企業で信頼され活躍してくれているため、毎年多くの求人を受けている ▲本校には、卒業後の進路や資格・技術の習得など自負できることが多くあるが、生徒の募集に繋がらない					
4 学校の抱える課題		・生徒の多様性により、個々に対応をしなければならない課題が多くなっている ・目的意識がなく、学習意欲のない生徒が増えてきた					
5 今年度の具体的な重点目標		◇「わかる授業」、「達成感を味わう授業」など魅力ある授業展開と適切な評価 ◇生徒一人一人を理解した生徒支援 ◇キャリア教育の観点からの進路支援キャリア教育					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価	
教務	①学期毎の評価をチェック・検証する。	①評価の整合性とその説明ができるか	①一部の生徒を除き基礎学力の定着ができた	B	○ICT活用が浸透し分かりやすい授業が実施されている ▲学習意欲の乏しい生徒への支援体制	A	
	②授業研究・公開授業週間③	②生徒授業評価	②ICTはどの教科でも積極的に活用できた	A			
生徒支援	①人権教育	①いじめアンケート結果分析	①生徒が安全・安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援した	B	○いじめや悩みを直接相談や、第三者が伝えてくれることで迅速な対応ができた ▲染髪、ピアスなど規範意識が低い生徒が散見された	B	
	②教育相談週間を含む相談活動	②面談で得た情報の共有ができたか	②個々の生徒の特性に合わせた支援を行った	A			
進路支援	①保護者と連携した進路支援	①アンケートによる満足度評価	①ICT等を活用した保護者や企業に向けた情報発信した	B	○コロナ禍で縮小されていた進路行事について計画通り実施できた ○ICTを活用した求人票閲覧や履歴書作成など、新しい試みを実施できた ▲自主的に行動できない生徒が増えてきた	D	
	②進路ガイダンス等の効果的な活用	②進路実現の結果	②各種ガイダンス、面接練習等を実施した	B			
II 学校関係者評価 実施年月日：令和6年2月29日			13 来年度に向けての改善方策案				
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化に伴い定員割れはどの学校も直面する問題。一校だけでどうにかする問題ではない。 ・企業側からすると御校の生徒は採用したい人材。生徒減もあるが定員獲得に頑張ってください。 ・ICTはどう使うかで生徒のやる気を引き出すことができる。外部と相談しソフト作成を。 ・中学校への出前講座や課題研究の成果をみると、活躍している様子が分かる。今後企業と関わるなど、さらに進めて欲しい。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの成績（評価）不振者を早い段階で解消するシステムを模索する ・生徒個々が社会的責任やTPOに合わせた行動ができるような意識を醸成できるように支援を行う ・地元企業就職や定住者の増加を図るため、行政とのタイアップを継続 ・学校から企業に向けての情報発信と、企業や学校の情報を生徒保護者に提供の強化 				

